

牛田 淳

さて農地改革に関するレポート、一月末には完成の予定でしたのに寒々と學校の用務のためにびっくりになって、本日やっとお送りしましたがいかに非力とはいえ表ながらかきなぐりのまことに成了したことを赤面の至りに存じて居ります。ことに社會農業の所など基礎的な把握の仕方をもたないためにもつとも拙劣なケ所だと思ひます。その他表の作り方、漢字の使用法など、他の方と統一の必要もありましようし、どうか恩賞ない教諭をいたゞいて出版までには今少しよしものに直したいと念じています。又農園や實習などは添付の要はありませんでしようか。

しかしおかげで恵としてはじめ勉強になりました。又副産物として同村の水稲いや農民運動の歴史がかなり分りましたのでこれは社會学アロバーとはちがうでしようが、それについて別にモーテラフを書いてみたい気が起りました。とくに農民運動は當時の至聖者（小作人、地主ケイサツ、裁判所弁護士）が生きているうちに書き書き研究に作ってナマのデータをまとめる（これはルボルタージュとしても貴重なものになります）かと考えて、

「これから一々聞いてまわるつもりです。それと当時の新聞雑誌記録組合のビル、新聞などをまとめて相当の大資料集が出来上ることになり、まあ今后二三十年計画でやってみることにいたします。

さて研究通信で来年度の課題が農家人口となりたことを知りました。元末村研のメンバーは社会学の外に農業經濟と日本史の方が多少加わっておられると言えますので、なるべくこの二、三系統の研究者に位置の立場を之ぶことが必要だと思います。その意味では農家人口のテーマはどうも歴史の方からはやりにくく、手前三ソですが、私が先輩提案した山林社会の方が好適だと思います。しかし私自身としては今年度の課題でスクランプを中心に題角させてもらつたので今度は更にスクランプの中に入つて家族の問題をやることは研究のコースとしてあつらえ向こうだと書んでおきます。

次に調査方法ですが、「西園は農地改革問題以上に日本の地方風に差違があるはずです。し小地域内ごと、交通の便不便、耕作、水田耕作の割によつてちがい、更には家族構成の如何によつてもちがつてくると思ひます。したがつて調査農家の全國的配布を偏らぬよう平均化し、更にその中で山村、平坦地、山村、畠村、家族数のマルクマールで調査対象

方毎に九州開拓年、各里的調査者の志望を

つけて分担をとめ、しかる所にこれも委員会で共通の調査のための標準案を作成配布してもらうということにした。廿人理想的な

と思います。そして最後に本にまとめるところを各地毎に研究者が集つてその地方の成果を発表するか、或は全国を縦断的に、山村、平坦村、近郊村等に研究者が集つてまとめるかして、なるべく発表が個人フレイにならないようにすることが、村研という団体を真に有効に運営する上にも又個人の研究の進歩のためにも大切だと思います。

勿論前にも書いたおぼえがありますが、西園に早く着手することが次の大会に向む合せるために先決條件ですから、以上のよう手帳があまりに煩でしたら、まあ農業年度の課題のところにでも考慮頼う」として、ともかく四月初め頃には委員会を設けて下さり、委員の間でもまだ大分意見が違うようですね。「先生は一軒の農家を中心にくわしくしきべると書かれ、大内氏は同じ村のであるだけ様々な階層、型をえらぶと言っています（「（）」）それから「の問題についてはすでに述べた論文や単行本が相当あるようになりますので、我々が利用できるよう为了参考文献リストを用いて発表して下されば非常に便利です。

（三月二八日附、有資範弘庭）（米子西高）